

## 8. 2025年度 群馬県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

独立行政法人国立病院機構渋川医療センター

てんかんセンター長

井田 久仁子

ニューロモデュレーションセンター長

宮城島 孝昭

### 1. 概要と診療体制、院内での活動

今年度はてんかんセンターとして、外科治療と長時間ビデオ脳波モニタリング検査を主軸に必要時には県内でもてんかん外科治療を受けられる体制が整いつつある。次年度は術中ナビゲーションシステムの導入が予定されており、DBS・SEEG等のてんかん外科の新しい技術も期待される。また小児科、重心施設併設の病院として移行期医療に注力し、重度のてんかん性脳症患者の重心病棟への短期、長期入所を推進し、地域医療との連携も進めている。3人のてんかん診療支援コーディネーター（山浦美和子 MSW、狩野未樹言語聴覚士、岩丸樹看護師）が院内外で広く活動を展開し、多職種連携や他施設連携をさらに推し進め、病院をあげててんかん診療に取り組む姿勢をアピールした。MOSESも定期的な開催を目標としており今年度は2025年8月2-9日に4名の患者が参加した。2025年4月より引き続き、てんかん専門医を目指す2人の脳神経内科医師が非常勤医師として勤務、外来診療と研修を継続し（群馬大学脳神経内科 道崎瞳医師、太田記念病院神経内科 黒澤亮医師）、群馬県初となる脳神経内科のてんかん専門医取得を目指している。

### 2. 市民啓発などの対外事業

昨年度末に施行したパープルデーイベントでは、渋川市の全面的な協力を得て、伊香保温泉石段を2日間のパープルライトアップ、職員の缶バッジ着用を行ったが、今年度も同様の活動が予定されている（図1、写真は昨年度のもの）。今年度は下記の講演及び患者談話会を行った。

1) 2025年5月31日「てんかんを学ぼう—PART5—」

演題：「てんかんについて～基本から外科治療まで～」

講師：渋川医療センター 脳神経外科 宮城島 孝昭 先生

2) 2025年2月15日「てんかんを学ぼう—PART6—」

演題：「自己免疫性脳炎後てんかん」

講師：太田記念総合病院 脳神経内科 黒澤 亮二 先生

これらのセミナー終了後、てんかん患者及び家族が自由に医師やコーディネーターをファシリテーターとして語り合う形式の談話会「えびカフェ」を毎回行っている（図2）。今回で6回目の開催であるが、非常に好評であり、毎回楽しみにしてくださる方もおり、当院のイベントとして定着しつつある。

医療機関向けには、県内のてんかん診療を行っている130医療機関（訪問実績及び第9次保健医療計画より同意を得たてんかん連携候補医療機関）にアンケートを行い解析した結果、そのニーズに伴い今後要望をどう反映していくかを検討している。県内の教育機関については、学校向けにアンケートを行った。その結果を元にてんかんに対する知識をもってもらうことを目的として、来年度から県の機関と連携して教師向けに講演を行うことを予定している。



図 1



図 2